

2010－2011年度
国際ロータリー第2790地区
第2分区 ロータリー情報研究会
報告書

日時：2010年11月25日(木)

会場：三井ガーデンホテル船橋ららぽーと

ホストクラブ：船橋東ロータリークラブ

プログラム

司 会：船橋東RC 織戸 豊
船橋東RC 久保富治

- 12:00 受付開始
- 12:30 点 鐘
国歌斉唱
ロータリーソング「奉仕の理想」
ソングリーダー 船橋東RC 伊藤 直子
- (食 事)
- ホストクラブ会長 挨拶 船橋東RC 相川 泰久
幹事報告 船橋東RC 根本千枝子
- 13:00 ガバナー補佐 挨拶 ガバナー補佐 金子 研一
地区委員 紹介 ガバナー補佐 金子 研一
地区クラブ研修委員長 挨拶 千葉西RC 海寶 勘一
卓 話「私たちは何故週一度ロータリーに集うのか」
地区職業奉仕委員長 松 戸RC 土屋 亮平

～*～*～*～*～*～*～*～*～*～* 休 憩 *～*～*～*～*～*～*～*～*～*～*

- 13:40 グループ討議 (A～Fグループ)
- 14:10 意見発表
- Aグループ 船 橋RC 鈴木 介伸
Bグループ 船橋西RC 山本 雅章
Cグループ 鎌ヶ谷RC 大澤 茂
Dグループ 船橋東RC 藤代清七郎
Eグループ 船橋南RC 平野 隆幸
Fグループ 船橋みなとRC 西方 明
- 14:40 講 評 ガバナー補佐 金子 研一
14:45 地区職業奉仕委員長 総評 松 戸RC 土屋 亮平
15:00 点 鐘 ガバナー補佐 金子 研一

参加者

* 地区委員

地区職業奉仕委員会	委員長	土屋 亮平様 (松 戸 R C)
地区職業奉仕研修委員会	委員長	富 一美様 (成田空港南 R C)
地区クラブ研修委員会	委員長	海寶 勘一様 (千葉西 R C)
	委 員	川名 光俊様 (館 山 R C)
	委 員	堀内 正一様 (木更津 R C)
	委 員	安蒜 俊雄様 (松戸東 R C)
	委 員	山下 清俊様 (市川東 R C)

* 参加者人数 1 2 6 名

地区より	7 名
船 橋 R C	1 5 名
船 橋 西 R C	2 7 名
鎌ヶ谷 R C	2 2 名
船 橋 東 R C	2 4 名
船 橋 南 R C	1 9 名
船橋みなと R C	1 2 名

ホストクラブ会長挨拶



船橋東ロータリークラブ
会 長 相川 泰久

本日は、2010 年度～2011 年度 第2 分区ロータリー情報研究会、ならびに合同例会に各クラブから多くの皆様にご参加いただき、ありがとうございます。

レイ・クリンギンスミス R I 会長は、4 大奉仕の各部門は重要であり、「奉仕」「親睦」「多様性」「高潔性」「リーダーシップ」という 5 つの価値観は、ロータリーの中核であり、この価値観を分かち合う必要があると述べています。

また、織田ガバナーは、クラブを強化するためにロータリーの綱領を正しく理解し、職業倫理を高揚することが必要であり、職業奉仕への正しい取り組みがロータリーを蘇らせる鍵であると強調されています。

織田ガバナーの深い見識とロータリーの直面する課題に掲げていらっしゃる中・長期的なビジョンにいつも感銘を受けています。当クラブにおいても今年度の目標のひとつに「童心に帰る例会」を企画することを挙げています。職業の異なるロータリアンが、週に 1 度集い、ロータリーの中核となる価値観を共有することが職業倫理の高揚に繋がると考えています。

本日は、「私たちは何故週 1 度ロータリーに集うのか」というテーマのもと、土屋職業奉仕委員長に卓話をお願いしています。各クラブからの意見発表によって、実りある情報研究会となることを願い、挨拶とさせていただきます。

ガバナー補佐挨拶



国際ロータリー2790 地区

第2分区ガバナー補佐 金子 研一

本日は、地区職業奉仕委員長土屋亮平様はじめ、クラブ研修委員長海寶勘一様、地区委員の方々全員のご参加大変感謝しております。

毎年行事のひとつであります、当2790地区第2分区のロータリー情報研究会は、その年のホストクラブ主催であります。前年度までは3分区毎の合同セミナーでした。

以前は、ロータリーに入会して3～5年未満の比較的年数の浅い方々を対象に、ロータリーに関する情報の提供や伝達をする事を第一に、且つ会員相互の親睦を図り面識を広め、出来るだけ早くロータリーに馴染んで頂こうという主旨で、約20年以上前から分区単位で開催する、当地区独自の勉強会でありましたが、近年、規定審議会を始め、CLP等ロータリー情報が錯綜しており、今年度は当分区の全員の方に登録していただき、全員の方に情報を共有していただく趣旨で全員登録をしていただきました。諸先輩方にはご足労いただきましたが、本日のテーマ「私たちは何故週一度ロータリーに集うのか」を今後の活動とクラブの活性化に役立てて頂ければと思います。

地区クラブ研修委員長挨拶



国際ロータリー第2790地区
2010-11年度 地区クラブ研修委員会
委員長 海寶勘一（千葉西RC）

第2分区6クラブの皆さまこんにちは。

只今ご紹介を賜りました、地区職業奉仕委員会に属し、クラブ研修委員会の委員長であります、千葉西ロータリー・クラブ会員の海寶勘一です。

只今は2分区：金子研一ガバナー補佐さんと相川泰久：船橋東RC会長さんのご挨拶にもありましたが、今年度は織田吉郎ガバナーからスタイルを磨こうという地区テーマを頂き、そのためには職業人としてのロータリアンの基本である職業奉仕をよく理解をして、一層ロータリーライフを有意義にさせていこうと、委員会活動がスタートをされております。

再度の御説明になりますが、各14分区でロータリー情報研究会を開催して頂き、分区の皆さまのグループ討議において、「私達はなぜ週一度ロータリーに集うのか」のテーマをもって、自由闊達なグループ討議をして頂きたいと思っております。

土屋亮平：地区職業奉仕委員長さんが、いつも口癖に申される言葉は、ロータリーの職業奉仕をもっと簡易に受け止めて、ご自身が日常携わっている事業経営の理念や姿勢そのものを、例会で集う仲間とともに自己研鑽をすることです、と仰っております。

毎週の例会では、形式や形骸化されたことだけではなく、もっと活発な会員同士の交流をもって、各クラブ内で積極的な研鑽や修練や感化をしあうことが、できるようにしたいものです。

これから土屋亮平：地区職業奉仕委員長の卓話を参考にされて、是非とも意義のあるグループ討議をして頂ければ幸甚ですし、先ずはご自身の事業繁栄に結びつけて一層の職業奉仕の心を磨いてほしいものです。

最後になりましたが改めまして、第2分区のロータリー情報研究会を設営して頂きました、金子研一ガバナー補佐さんと、船橋東ロータリー・クラブ：相川泰久会長さん根本千枝子幹事さん始め、会員の皆さまには多大なご支援を賜りましたことに、心からの感謝と御礼を申し上げます。

ご理解とご尽力をくださり誠にありがとうございました。

第2分区 ロータリー情報研究会 卓話

テーマ「私たちは何故週一度ロータリーに集うのか」



国際ロータリー第 2790 地区
2010-11 年度職業奉仕委員会委員長
土屋 亮平 (松戸 R C)

今回のロータリー情報研究会のテーマ「私たちは何故週一度ロータリーに集うのか」は織田ガバナーから研究会のテーマにする様に、命ぜられた議題であります。

一見、単純な議題に見えますが、本質的には大変深遠な要素を含んで居りますので、深く考察しなければなりません、真摯に取り組むことに致しましょう。

そもそも人間は、この世の中を一人で生きていけることなど、不可能でありましょう。そこでロータリーは特にロータリーの綱領の第3項の中で、人が社会で生きて行く基準を『奉仕の理想』と掲げたのであります。

『奉仕の理想』に触れますと、人はこの世を一人では生きて行けません。必ず他人のお世話にならなければなりません。ですから、そのお返しをしなければ、ならないのです。

(私は公式訪問時、全てのクラブで「人が生きると言うこと」の詩を説いて歩きました) 究極は「他人の立場に立って物事を考え、行動しよう。——それが、究極、自分を仕合わせにする道だ」俗に言う黄金律「汝の欲するが如く、他人に施せ——自分がして貰いたい様に、他人に役に立つ様に行動しなさい」を実践することでありませう。

この『奉仕の理想』の精神を啓蒙しあい、他人に対する『思い遣りの心』を燃やす人を育てる学校が、ロータリークラブであります。そのロータリークラブで毎週行われる『クラブの定例会』が、ロータリーの授業と言うことになります。

ではロータリーの定款で、例会とはどの様に定義しておりますでしょうか。

ロータリークラブ定款6条会合・第1節——例会 (a) 日および時間。本クラブは、毎週1回、細則に定められた日および時間に、定期の会合を開かなければならない。

その様な定款上の規定から、必ず一定の時間と一定の場所で開かれなければなりません。その時刻と場所は国際ロータリーの公式名簿に載せられ、世界の凡ての会員が、この名簿に従って随時、どのクラブへも出席出来ると言う権利が保証されて居ります。それ故に、クラブの例会と言うものは、そのクラブだけのものではありません。クラブの例会は国際ロータリーの一員としての『公式会合』を意味し、ロータリークラブに於ける定

例会とは唯一、無二なのであります。それ程に貴重な例会であれば、余程のことが生じない限り、安易に臨時変更したり、中止したり出来ない訳であります。

R I で言う出席という文言は唯一「公式会合」即ち、クラブ定例会のみを意味しますし、その上会員資格を維持する最低の条件として、例会出席と言うことを会費の納入と同等に厳しく規定して居ります。

では何故ロータリーでは例会をそれ程に重要視するかと言えば、自分の限られた業界では得られ難い、優れた異業種の仲間との出会いを尊重するからです。そもそも人間は一人で、心を磨くことなど大変に困難であり、一定の強制がなければ怠惰になりがちであります。例会へ出席すると言うことは志の高い、優れた職業人との出会いを保証されていること、その上にその優れた職業人から強い inspiration を受け、自分自身が成長出来ることを確実に保証されて居ります。それ故に、定例会に於いて互いに刺激し合い、切磋琢磨し合うあえる場所が例会なのです。

尚、同僚のロータリアンからは、貴方の業界の全権大使としての使命を勤めてくれるとを大いに期待されていることも忘れてはなりません。

この様な信頼関係をより一層緊密で、効率良くする為の方法として親睦が重要であり、非常に効果的であります。終始厳格な例会や勉強会ばかりでは、飽きがくることでしょうから、中和剤としての親睦活動が大事な活動であります。この様な楽しい、有意義な例会で、内容的にもより一層に親睦を増進させるプログラムを実施すれば、職業倫理の向上を願う仲間が集まって呉れるに違いありません。但し、楽しい例会と言っても、唯、単なる笑いの多い例会でも、レジャーが多い例会を指すのでもありません。職業意欲を向上させる様なプログラム（例えば、有益な職業上の事例等）を組み入れるのが、理想的な例会であります。

優れた人との出会いが保証され、自分の心を磨くことが出来、自分の足らざるところを補うことが出来、人格形成の向上が諮れるのが理想的なロータリーの例会であります。この様な例会であれば、会社や家族からも理解され協力を得られること請け合いです。別の表現をすれば、ロータリークラブとは、職業倫理の向上を目指す同志の集まりであります。会員各自が自分の職業の真の意味を理解せねばなりません。されば自分の職業に従事する時に、己の職業上の能力を如何に生かすかに懸かって居り、己の職業を世の為に役立つよう精一杯生かす義務を背負って居ることを認識すべであります。そして自分の社会的職業上の役割を分担すると言う責任が生じましょう。故に、金銭的報酬は、社会に対する役割への対価であると認識すべきであります。

最後に金銭的報酬を得る限りにおいては、自信をもって『売ることが出来るもの』を持って居なければなりません。即ち、職業上本物のプロでなければなりません。

以上の様な理由から、一週間に一度の例会への出席と言うものは、ロータリーの奉仕への第一歩であり、ロータリアンの義務そのものです。

かの社会奉仕に関する 1923 年の声明、俗に言う決議 23～34 議案の提案時の R I 会長を勤められたガイ・ガンディカーは次の様に出席規定の厳格さを求めました。「ロータリーの例会は live wire の如し」と例会を電流に例え「善良な職業人の精神状態が例会に伝えられるのは、電線を一定の電流が常にスムーズに流れる様でなければならない」即ち、例会に出席すると言うことは良質な職業人との出会いが保証される場であり、自覚を高める為の出会いを保証する場でなければならない。例会を通じて自己を磨くことを呼びかけ、自己改善がロータリーの根本原理であることを強調されて居られました。

勿論、例会を欠席すると言うことは、ロータリアン同志と『ロータリーと言う精神文化を共有する』と言う貴重な機会を逸することになります。

ロータリーの職業奉仕の理念「自己の職業通じて社会に奉仕する」と言う、ロータリー独特の職業分類を専有している以上、このロータリアンとしての責務は負わなければなりません。

ましてや、出席はしましたけれど、私語や雑談にウツツをぬかし、携帯電話のメールに明け暮れる様では、ロータリアンとしての資格を云々する以前の問題で在りましょう。

合掌

グループ討議 意見発表

Aグループ



発表者：鈴木 介伸（船橋RC）

- ・クラブ価値を高める事が大事な事で、例会に出席し、ありのまま心を開く友人作りが出来るのがロータリーである。
- ・最初はポール・ハリスも寂しさや仕事を共有でき、安心した人間関係形成からロータリーを創設し、そこから奉仕の気持ちが生まれてきた。
- ・世界・地域・人種によって様々なクラブの有り方があるが、基本的な運営方法や考え方は同じである。
- ・出席を続けると年度を重ねる毎に、より世間が見えてきて、良し悪しが理解できるようになり、例会が楽しくなってきた。
- ・入会1年で、先日の銚子の地区大会に出席し、最近楽しくなってきた。
- ・役を受けるとは、忙しいし、プレッシャーもあるが、皆の力を合わせて例会が成り立つ意味は深く、例会を段取りしてくれた方のことを考えると一日たりとも休めない。
- ・会員皆の元気な姿を見て安心する。まず、そこから始まる。



Bグループ



発表者：山本 雅章（船橋西RC）

- ・結論から申しますと、やはりパールハリスが言われた人間一人では生きていないという
ことで始まったロータリーは、ロータリーの例会が楽しいものでなければいけない。
- ・RC 会員が自分たちの職業を通じ、職業奉仕を行う実践の喜びを感じる事が人間の
原点ではないかと思う。
- ・我々の各々の職業の大使である。例会を通じて学びえたものを多方面に伝える義務が
あることが出来る喜びがある。
- ・超我の奉仕
- ・ポール ハリスはキリスト教徒ではが、基本的には宗教的な面もあり、週一度集まる
のも一つの宗教色からきているのではないかと思う。
- ・ロータリアンは選ばれし者、高貴な人、武士道に通じる精神が流れている。
- ・ロータリークラブは、道場であり、学校でもあり、色んな方が教えてくださることに
より自分を高めることができる。
- ・例会に出席することによりレベルアップできるのでは。



Cグループ



発表者：大澤 茂（鎌ヶ谷RC）

- ・毎週会員に会う事、皆さんと食事すること、例会で学んだ事を仕事に生かす。
- ・自分はロータリー歴 12 年目、毎週集まることは、決められていることであるから、当然実行するのが義務であり、女性の欠席が心配なので、休むと電話するようになっている。
- ・3 年毎で仕事は移動するが、出席したいと思っており、それは、いろいろな人との情報交換が楽しみだから。
- ・20 年以上前に入会したが、週一度仲間の様子が分かるから出席する。
- ・在籍 20 年位だけど、100%出席しており、ロータリーは石の上にも3年、一度休むと100皆出席消えるし、ロータリーは人生道場である。
- ・何故出席するのかと言うと、先輩の話が聞けるから。
- ・在籍3年ですが、時間を作る勉強させて頂いている。
- ・11 年在籍してるが、現在100%出席しておりますが、3 年目位までは、例会出席してもつまらなかったが、先輩の人的魅力で、出席し皆さんと会えるのが楽しみになってきたし、入会して良かったと思っている。
- ・34 年在籍中、5～6回欠席した経験があるが、仲間の顔を見に来るのが楽しみであり、情報交換が出来るのも楽しみの一つである。
- ・13 年在籍しているが、今まで考えたことなかったのが現状で、今年度会長になって初めてロータリーを学んだ。



Dグループ



発表者：藤代 清七郎（船橋東RC）

Dグループには、ロータリー暦二十数年～2年弱といったメンバーが集いました。テーマである「私たちは何故週一度ロータリーに集うのか」に対し、様々な意見が出ました。私は、ロータリーに入ってから6年程になりますが、今日のグループ討議で多くの方が「楽しいから」といったような意見を仰っていたのには、少々驚いているところでございます。

さて、我々Dグループでは・楽しいから・仕事に繋がる（転勤で船橋に来てロータリーに入会という方も何名かおられました）・いろいろな人に会える（他業種の方との交流・親睦を図る事が出来る）・勉強になる（諸先輩たちの話が聞ける）・仲間作りといった意見が出されました。総じて「楽しい」といった意見が多く聞かれ、その理由が「人に会える」というところに起因しているように思われます。同業種の集まりであれば、普段仕事上でもあろうことかと思いますが、ロータリーは基本的に他業種の集まりです。

そこがロータリーの魅力の一つなのではないかと思っております。また、「例会」という週に一度の集まりだけでなく、様々な場面で懇親を深められるのも楽しさの一つという意見も聞かれました。

私自身を省みますと、楽しくて来ていると言えるのかどうかは分かりませんが、クラブの皆様に出会いに行くといった気持ちが心のどこかにあるような気が、最近してきているところではあります。今後は、ロータリーに長くおられる諸先輩方に、ロータリーの楽しみ方を学ばせて頂き、自クラブのますますの発展に寄与できたらと思っているところでございます。まとまりがない発表になりましたが、Dグループは「楽しい」から集っています。という発表にさせて頂ければと思います。



E グループ



発表者：平野 隆幸（船橋南RC）

- ・異業種での集まりで、ロータリーでは色々な方と会う事が出来るメリット。
- ・自分の為にやる仕事は満たされない為、世の中の為になる事がしたくて、ロータリーに入会した。
- ・毎週、例会という「場」が提供せれる事に意味がある。
- ・100%出席難しいが、欠席すると皆に会いたくなる。
- ・異業種の方と話すことで、自分を振り返る事が出来る。自分や自分の職業を客観的に見ることが出来る。
- ・千（げんしゅう）さんの言葉「お客様をお迎えする心」は職業奉仕の心だという事である。「ロータリーの職業奉仕」と「茶の心」は通ずる。
- ・自分一人では何もできないが、クラブに集まることで色々な活動が出来て感動した。
- ・自分の所属するクラブの良さを知ってほしい。メーキャップを通じて他クラブをしてみると、自分のクラブの良さが分かる。
- ・ロータリーに集う事で、人生にとって「宝物」がたくさん見つける事が出来るのではないのでしょうか！



Fグループ



発表者：西方 明（船橋みなとRC）

- ・毎週1回集まる決まりがある。
- ・一人では出来ないことが、集まれば大きな奉仕が出来る事の楽しさがある。
- ・他団体と違い、異業種であり、ロータリーでの出会いが一期一会になっている。
- ・週一回が身体のリズムになっている。
- ・女性会員からの意見では、男女差別のないフレンドリーな社会である。

「私たちは何故週一回ロータリーに集うのか」

このテーマを考えたとき、私は、いったい何を話したらいいのか大変迷いました。自ら週一度の例会に出席しているのに、何も出てこないとは・・・と

1週間から10日程、時間のある限り、このテーマについて考えていました。

入会したての頃は、例会場に昼食を食べに行くような気持ちでしかありませんでした。その後、何度となく退会しようかと思ったこともありましたが、その度に、声を掛けてくれる方がいたり、社会奉仕活動で感動する体験ができ、改めてロータリークラブの良さを感じたりしました。あっという間に8年も続くと、自然と毎週例会会場へ足が向くようになっていました。そして、クラブの仲間と会いたい、話したいという気持ちになっていきました。

私に入会を勧めてくれた先輩が言いました。「手帳に毎週火曜日12:30～1:30の1時間、ロータリーの予定を入れてしまえばいいのだよ。どんなに忙しい人だって1週間に1時間位の時間なら作れるだろう。その方がだらだらやっていた仕事も時間内に終わらせることができ効率的だ。」と言って私の肩を押していただき入会する決心がついたのです。それから8年、今ではすっかり週に1度の例会に行くのが習慣となりました。

さて、それでは、何故私は週1度ロータリーに集う事が出来たのでしょうか？

ロータリークラブは業界代表の集いでありながら、会員が地位や立場を脱ぎ捨て、まっさらな気持ちになれる場所であるからです。

会社の大小、立場の上下がなく、皆、平等に接することが出来、業種間のしがらみがなく、仕事から離れられる憩いの場であり、例会を通じて会員相互の親睦を深める事が出来るからです。

私たちは、週1度合う仲間であり、ロータリーの綱領を順守し、4つのテストに学び、

奉仕の理想を理念としたクラブであり、クラブの会員だけでなく、分区のロータリアン、地区のロータリアンとの交流、更には日本中のロータリアンとの出会いもあり、究極は世界中のロータリアンとの出会いが実現出来るのです。

これこそがロータリーの魅力であり、宝探しの長い船旅をではないでしょうか。



講 評



国際ロータリー2790 地区

第2分区ガバナー補佐 金子 研一

皆さま、情報研究会に参加して如何だったでしょうか？十人十色、一人一人答えは違うと思います。

私は、十数年前よりネパールでの医療奉仕から始まり、フィリピンの離島での診療、カンボジア王国・ミャンマーでの学校建設と奉仕活動に従事してきましたが、なかなか答えを見いだせずにおり、現在、基本的なロータリー哲学の必要性を感じております。

以前、2790 地区のガバナー月信に掲載されていた故佐藤千寿氏の言葉に“ロータリーは人間道場であり、例会は授業、会費は授業料”を思い出されました。

私のロータリーへの思いは、この良き日に集い、良き仲間と集い、ロータリーを通じ奉仕が出来、友情を分かち合う事が出来た事をロータリーに感謝している次第です。

また、来年の第2分区家族新年会は初めての合同親睦例会となります。未加入会員のご友人お誘いの上是非ご参加いただき、この良き機会にロータリーの広報・増強に役立てて頂ければ幸いです。

2月にはIM、分区ゴルフで最後になりますが、最後まで気を引き締めて行きますので、今後とも宜しくご指導・ご鞭撻お願いいたします。

総 評



国際ロータリー第 2790 地区
2010-11 年度職業奉仕委員会委員長
土屋 亮平（松戸 R C）

国際ロータリー第2790地区第9分区ロータリー情報研究会の閉会にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本年度のロータリー情報研究会は、金子研一ガバナー補佐様のご指導の下、相川泰久・船橋東ロータリークラブ会長様を始めとする第2分区の皆様のご協力を戴き、情報研究会がこのように立派に終えることができましたことに対し、衷心より感謝申し上げます。

さて、本年度の織田ガバナーは、5大奉仕部門の内、職業奉仕が最も理論的であり、倫理的であると結論づけられました。そのような観点から、今後益々増えることが予想されるであろう RIからの提示、並びに案件につきまして、各クラブがそれらについて、独自に、その是非の判断を下す必要性が想定されます。それ等に対応すべく、各クラブの職業奉仕委員会の中に『クラブ研修員会』を設置することを要望され、常日頃から研鑽を積んで頂きたいと、断つての要請でございます。

特に織田ガバナーは、今年度、各分区毎に開催されますロータリー情報研究会を地区の職業奉仕委員会が担当するように指示され、テーマも「私たちはなぜ週一度ロータリーに集うのか」と示され、「出席なくしてロータリーなし」と言いますが、出席の重要性を再確認して、真のロータリーライフを構築して頂きたいとの思いと拝察致します。

“出席と申しますと、これはクラブ奉仕の分野ではないのか？”、“今更そんな当たり前のことを議論するのか？”等のご意見も聞きますが、ロータリークラブの定例会は、些か異にします。例会と言っても一連のセレモニー、食事、卓話、それ以外にロータリーの例会にはもっと深遠なものが存在しなければなりません。それを本日摺み採って頂いたと思います。それこそが、職業奉仕を理解する上での大前提であるからであります。

第2分区のロータリアンの皆様、今日の研修会は皆様にとってのロータリー情報研究会でありました。

敢えて言わせて頂ければ、地区職業奉仕委員会の任務は、職業奉仕への道案内に過ぎません。

どうぞ今日された活発なるご討議をクラブに持ち帰って頂き、楽しく、実り多いクラブ例会になりますことを期待致します。

混迷する社会で生き残る道は、唯一、職業奉仕の実践『大道無難』に尽きます。